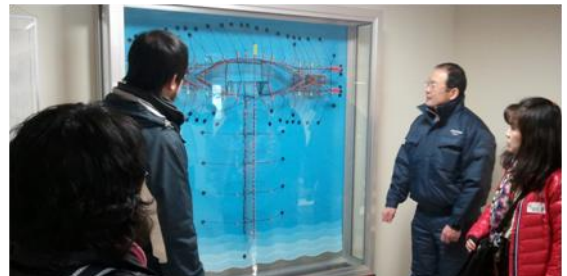


知床エコツーリズム推進協議会

所在地 北海道目梨郡羅臼町本町 361-1 (知床羅臼町観光協会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

エコツアーを定着させる仕組みづくりへ

ホエールウォッチングや登山・トレッキングについては、専門のガイドがおり、定着しているが、観光協会等が企画したエコツアーは単発で終わってしまっている現状にあるため、持続可能なエコツアーの商品化について、専門家からのアドバイスをいただき、今後のエコツアー造成に役立てたい。

近年の観光客が求める“体験”や“地域住民とのふれあい”に加えて、今年度より受け入れた修学旅行により、町を紹介するガイドの必要性が更に高まっている。発掘・育成には、町でも取り組んできているが、現在は数名の町民ガイド（65歳以上）と観光協会理事がガイド役となって対応している。

エコツアーを定着させるためにも、町民ガイドの人材発掘やガイドの品質維持のための、仕組みづくりが急務である。

また、登山やシーカヤックなどをガイドする専門ガイドと、町や羅臼の漁などを案内する町民ガイドのすみ分けが今後課題になると予測され、誰もが納得して関わることができるエコツアーのための仕組みを考えたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	
大型鯨類、猛禽類、羅臼湖、間欠泉、昆布干しやウニ漁など一年中行われている様々な漁労風景	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること) 秋鮭荷揚げ見学、網外し・市場見学		
(取組を検討していること) ムラサキウニ駆除プログラム、オニアザミ駆除プログラム		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 7 日（水）～8 日（木）

●場所

北海道目梨郡羅臼町 湯ノ沢地区、船見町、岬町

●エコツーリズム推進アドバイザー

NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト 阪野 真人 氏

●参加者

公益財団法人知床財団、知床羅臼町観光協会、知床斜里町観光協会、美深町観光協会、
知床ネイチャークルーズ、町民ガイド、宿泊施設関係者 合計 10 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

（1 日目）

- ・ 羅臼漁業協同組合第 2 市場見学、観光船流水&バードウォッチング
- ・ 羅臼漁港全天候型埠頭、海洋深層水取水施設見学
- ・ 羅臼町上水道浄化施設、サケ・マス孵化場見学

（2 日目）

- ・ ウニ種苗センター見学
- ・ 昆布倉庫見学、おつまみ昆布制作体験
- ・ アドバイス・レクチャー、意見交換会

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

エコツアーのコーディネーターの資質向上と人材確保の必要性を認識した。

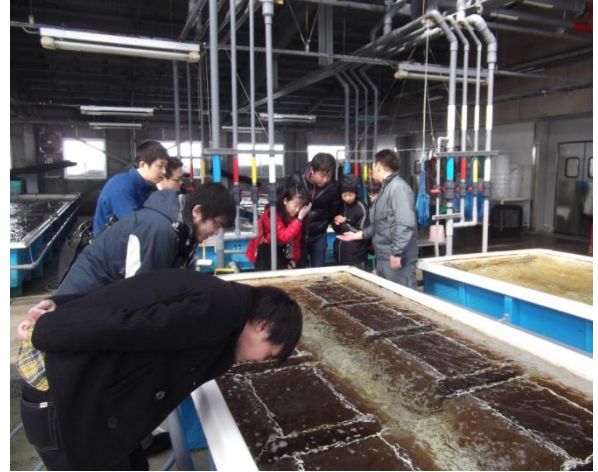
羅臼町にある既存の施設で案内やストーリー性を持たせることでエコツアーとして商品化できるが、観光協会職員だけではできないと参加者が認識した。

一部の参加者と、ガイド育成やツアー造成に関する相談できる関係が構築された。

●今後の期待される効果

知床エコツー推進協・観光協会の圧倒的な人的資源の不足を感じていただいたことで、今後は積極的に協力や助言を求めやすくなった。

漁港案内など、産業に特化したエコツアーの町民ガイドの確保・質の担保を目的とした講習会や勉強会の開催。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

漁師さんを巻き込んだエコツーリズムについて、その企画と継続のコツを学んだ。

関わる人たちが楽しんで取り組めるような、コーディネートする側の配慮が必要。

各施設は充実しているが、解説を聞いただけでは理解が困難なものが多かった。説明の方法と予備知識の有無によって得られるものが全く違うので、より充実したプログラムとするためには、事前配布資料やDVDの鑑賞を移動時間に挟むなどの工夫が必要だった。

阪野アドバイザーの人柄により参加者は素直に発言でき、意見交換タイムに限らず質問し助言をいただくことができた。また、阪野氏がエコツアーを実践されていることで、アドバイスの内容が現実的で、すんなりと参加者に理解されたようだった。今後協議会活動への積極的に関わってくれることを期待している。

阪野アドバイザーからの地域へのアドバイス

●事前に出てきていた課題

- ・ 観光協会等が企画したエコツアーは単発で終わってしまっている現状にあるため、持続可能なエコツアーの商品化につなげる。
- ・ 町を紹介するガイドの必要性が更に高まっている。発掘・育成には、町でも取り組んできているが、現在は数名の町民ガイド（65歳以上）と観光協会理事がガイド役となって対応している。エコツアーを定着させるためにも、町民ガイドの人材発掘やガイドの品質維持のための、仕組みづくりが急務である。

●現地で聞かれた課題

- ・ 地域から観光協会が何をしている団体か分かってもらっていない
- ・ 観光協会の地元協力者が少ない（主体的な協力者）
- ・ 観光協会の事務局スタッフが少ない

これらの課題を踏まえて、当 NPO が実施している漁業地帯でのエコツアーの概要を、以下の 3 つに要点を絞り、特にコーディネーターの役割や必要性について焦点をあてて説明した。

- ① 地域協力者を増やすコツ。
- ② ガイド養成よりもコーディネーター養成が必要であること。
- ③ コーディネーターとなるには何が必要か。

漁業地帯でのツアーを考える場合、一人の漁師ガイドを養成しても数個のツアーしかできないが、観光協会などがコーディネーターとなり、協力的な漁師たちとツアーを作ることで、いくつものツアーが作成可能になることや、地域との関わりを増やしていくには、自分達だけで完結せずに、困った時には助けてと声を出し続ける「助けてコミュニケーション」などの手法を意識して行うと良いなど、羅臼でのエコツーリズムの普及に役立てる為、当 NPO の事例紹介を通じて具体的なアドバイスをを行った。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

まず、町外への PR 活動と地域のエコツーリズムの仕組み作りを行うには、羅臼観光協会の事務局スタッフが不足している。この事については、協会スタッフや協力者達も認識している。協力の輪をどのように広げていくかが今後の課題となっている。

また各地域で漁業の不振が聞かれるが、羅臼の漁業地帯の活気はある。今回モデルツアーで見学した全天候型埠頭や漁協の昆布倉庫などは、団体ツアーの受け入れも可能なほど大型で観光利用にも適しており、漁協や一部の漁師からのエコツアーへの協力体制もある程度できている。世界自然遺産に登録された周辺の自然資源も組み合わせながら、漁業資源を活用したエコツアーを開発することは十分に可能な基盤がある。

今後は、漁業関係者と羅臼でのエコツーリズムの必要性を共有し、エコツアーへの積極的な協力や新しいツアーの開発など、具体的な行動に結びついていく必要がある。

羅臼観光協会自身が地域のディレクターやコーディネーターとなり、さらに地域の協力者もコーディネーターとなることで、漁業関係者がエコツアーガイドとして生きてくる。協会の人員不足と漁業資源を活かしたエコツアーの開発には、この手法から取り組むことが良いのではと思われる。

